



2歳児クラス 8月 第2回 「どろだんご つくろ」

保…保育士 講…講師 ★…保育士が準備する教材

シアタータイム

導入	<ul style="list-style-type: none"> 講:「どろでお団子作ったことある?くるくる まるめてまるめて」と言いながらお団子を作る真似をするなど、団子作りに興味を抱かせてからお話を始める。 	教材	
		<ul style="list-style-type: none"> ★絵本 ★iPad(シアターセット) 	
読み方	<ul style="list-style-type: none"> ①文中の擬音に合わせてリズム良く読む。 ②場面ごとに子ども達にも、手を動かして団子作りに参加させながら読み進める。 	保育士の役割	
		<ul style="list-style-type: none"> 子ども達と一緒に楽しくお話を楽しむ。 	

がくしゅうタイム

活動①		数	団子のもとを「3個」数えて取ることができる	実物参照
設問	団子のもとを「3個」数えて取りましょう			
活動内容	講:	「先生もぎゅっぎゅっ お団子作りたいな」		教材
	保:	「良いものありますよ」と紙粘土を持って登場。		
活動内容	講:	「なにになに?」とのぞき込み、実際に紙粘土に触りながら、その感触や簡単に形が変化する様子を子ども達に見せ、興味を引く。 「面白そう!これなあに?」		紙粘土 ※紙粘土は予め人数分(1人3個ずつ)に分割し、軽く棒状にしてトレイや皿に並べて準備しておく
	保:	「これは紙粘土!お部屋には泥は無いから、今日はこれでお団子作ってみたらどうかな」と提案。「今日は団子のもと3個取ってください」		
活動内容	講:	見本行動。子ども達と一緒に「いち・に・さん…全部で3」と数えながら団子のもと(紙粘土)を取る。 「みんなも欲しい?」「みんなの分もありますか?」		保育士の役割
	保:	「ありますよ」と配布用を提示。		
活動内容	子:	講師同様、紙粘土を数えながら「3個」取る。		<ul style="list-style-type: none"> 紙粘土提示 紙粘土「3個」を取らせる 称賛
	講:	「みんな3個取れたかな?数えてみようか?」 子ども達と一緒に声を揃え、指さしながら(基本向かって左から)1対1対応で3個数えて数を確認。称賛して<活動②>へ進む。		
活動②		巧緻性	手の平でくるくる丸めるなど形を変えて粘土遊びを楽しむことができる	実物参照
設問	紙粘土を使って団子作りを楽しみましょう			
活動内容	講:	「くるくる ギゅっぎゅっ、丸いお団子にできるかな?」		教材
	講:	見本行動。色や感触、硬さや匂いなど感覚行動を織り交ぜながら「くるくるギゅっぎゅっ」とリズム良く丸くして団子作りを見せる。 ※見本は丸い団子作りを見せるが子ども達の活動は自由で良い。		
活動内容	子:	講師同様、紙粘土を手に取り、形を変え粘土遊びを楽しむ。		紙粘土(活動①で配布) 持ち帰り用ビニール袋 1人1枚
	講保:	「匂いある?ぐにゅぐにゅ?べちゃべちゃ?どんな感じ」と五感に刺激を与えることばを掛けながら一緒に団子作りを楽しむ。		
活動内容	講:	頃合いを見て「みんなはどんな形になったかな?」と見せっこ。それぞれの形を(代表者数名でも良い)紹介。それぞれを称賛し終了する。 ※作品は棚の上や部屋の隅など指示を出して集め、乾燥後に持ち帰ることとする。 ※お迎えの保護者から見やすい場所に置ける園は移動させその日のうちに見せることができると尚良い。		保育士の役割
		<ul style="list-style-type: none"> 感覚を刺激する言葉かけ 粘土作りを一緒に楽しみながら個別指導 称賛 作ったお団子の置き場所の確保 		

数チャレ	ねんこ		教材
設問			
活動内容	※今回は<活動①>を数のチャレンジとします。		保育士の役割

■出来たかな表

【活動内容】	【ポイント】
シアター	導入の仕方を工夫し、「見たい」気持ちを高められたか
活動①数	片手を受け皿にして3個取る見本を行ったか
活動②巧緻性	楽しく取り組めるよう、粘土の使用の仕方をたくさん提示出来たか
数チャレ	活動①に含む

楽習タイム♪

*** テーマ・巧緻性***

ねんど遊び

- この年齢の粘土遊びは、感覚や感触を楽しむことを目的にする時期から、少しずつ具体的な形の表現を楽しむ時期に入ってきます。大人も一緒になって「ちぎってくるくる・ぺたぺたぎゅっぎゅ…」など動きと言葉をつなげながら粘土の形を変えるコツみたいなものを伝え一緒に楽しんでみてください。

※自由に形を変えて楽しむ粘土遊びには正解はありません。自由に作って壊して楽しむことは創造性を育み、情緒の安定・集中力の向上にもつながります。



両手をしっかり使って形の変化を楽しむことは大脳を刺激し手指の発達を促します。



今月のえかきリズム

*** おだんご***



えかきリズムの動画はこちら



楽習タイムの動画はこちら

